

博物館だより

No.23

平成 20 年 3 月 1 日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

友の会主催歴史たんけん ウォーク参加者募集!

博物館友の会恒例の歴史たんけんウォークが以下の日程で行われます。参加希望の方は電話にてお申し込み下さい。

①早春の英彦山ウォーク

■日時 3月15日(土)

■場所 添田町英彦山

②湯の街別府の歴史めぐり

■日時 3月23日(日)

■場所 大分県別府市

友の会会員外の方は入会後の参加をお願いしています。

3月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

3月1日(土) 9:30

【古文書講座】

3月8日(土) 10:00

【古典かな講座】

3月13日(木) 9:30

【みやこ学講座】

3月16日(日) 10:00

【初級古文書講座】

3月28日(金) 10:00

博物館友の会会員募集!

博物館友の会では平成20年度の会員を募集しています。バスハイクや講演会、史跡めぐりウォークなどにあなたも参加してみませんか?多くの皆様のご入会をお待ちしています。

♪年会費 個人会員 3千円

♪家族会員1名につき2千円

♪入会方法

博物館窓口で随時募

歴史を学ぼう!文化にふれよう! 歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩文講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。なお各講座では毎回資料代実費として200円が必要となります。また、継続して受講を希望される方の申し込みについては不要です。

受講希望の方はお気軽に博物館までお問い合わせください。

*講座内容紹介

【漢詩文講座】

○講師 宮原加代子 先生

○内容 天平時代(約一二五〇年前)の写経などをテキストに、漢詩文だけでなく、漢字による日本の精神文化史も探ります。初心者の方も大歓迎です。

○実施日 毎月第1土曜日

午前9時30分

【古典かな講座】

○講師 宮原加代子 先生

○内容 「建礼門院右京大夫集」と「平家物語・灌頂の巻」を学習しながら鑑賞します。初心者大歓迎!用紙と鉛筆あるいは筆ペンをご用意下さい。

○実施日 毎月第4土曜日

午前9時30分

【古文書講座】

○講師 当館学芸員 川本英紀

○内容 江戸時代の人が「くすし字」で書いた手紙や日記などを解説します。特にみやこ町に關係する古文書を歴史的な背景について解説を交えながら読み進めます。

○実施日 毎月第2土曜日

午前10時00分

【金曜古文書講座】

○講師 当館学芸員 川本英紀

○内容 博物館に寄託されている「岡家文書」を継続して読み進めます。幕末維新期を生きた旧小倉藩士岡出衛という人物の一代記など、読みごたえのある史料ばかりです。

○実施日 毎月第4金曜日

午前10時00分

【みやこ学講座】

○講師 当館学芸員 木村達美 他

○内容 ひとつのテーマを軸に郷土の歴史・文化を探ります。今年のテーマは「川(水)」。座学と見学会とを交互に実施して、五感による体感学習を目指します。

○実施日 毎月第3土曜日

座学は午前10時00分

見学会はその都度連絡します。



自筆原稿やデスマスクなど貴重な品も展示。

2月の博物館をめぐるできごと

2月5日からミニ企画展「みやこゆかりの先人展」が始まりました。第1回は硬骨の思想家・堺利彦を取り上げ、獄中書簡などゆかりの品約50点を展示。

2月14日、諫山小学校で出前授業を行いました。テーマは「木簡づくり」。木簡はいわば古代のメール。受講した皆さんも古代の役人気分で名文を墨書しました。



作った木簡には好きな文字をメッセージとして書き付けました

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマ

みやこの歴史発見伝②

江戸時代の善行者

毛利正春編著『孝義旌表録』の紹介①

官刻孝義録

寛政元年（一七八九）、江戸幕府は、全国の大名らに対し、過去に善行（善い行い）により表彰した領民の記録を全て提出するよう命じました。幕府は、その集まった膨大なデータを整理し、享和元年（一八〇二）に全五十冊、収録された善行者約八六〇〇名の『孝義録』を刊行しています（うち小倉藩分は二十八名）。

『孝義録』では表彰された理由を、孝行・忠義・貞節・潔白・奇特・農業出精など十一種類に分けていますが、善行の種類が多かった場合は孝行が優先されたこともあって、孝行者が全体の六〇％以上を占め、ついで奇特、忠義、農業出精、貞節と続きました。

幕府がこのように大がかりな事業を行った目的は、儒教を重んじ、風俗の改善を目指した「寛政の改革」の一環として、善行者の行為を民衆の生き方として人々に示し、教化することにあります。言ってみれば『孝義録』は、幕府が庶民に対して望んだ生き方の

「お手本」「教科書」でした。

『孝義録』の後、同じような善行者の伝記集が全国各地で刊行されますが、小倉藩では幕末期に一人の尽力でそれが行なわれます。

文久二年（一八六二）、田川郡糸村（現田川市位登）の神官・毛利正春は、村々で語り継がれている善行者の記録・伝説を調査し、「孝子（孝行者）伝」を編纂したいと小倉藩に願ひ出しました。藩はその申し出を「神妙の事」（殊勝なことである）とし、領内廻村を許しています。また、村々に対しては、彼が行なう聞き取り調査への協力や、

豊前国

奇特者 中代菅元村

孝行者 小倉藩下末町二丁目

孝行者 仲津郡金倉村

奇特者 築城郡小倉村

孝行者 金蔵郡金倉村

孝行者 同前

孝行者 同前

宿の提供などの便宜を指示して

います（長井手永大庄屋文久二年日記八月二日条。毛利正春が「孝子伝」の作成を思い立ったのは、各地で刊行された類似書の多くがそうであったように、幕府編纂の『孝義録』に少なからず影響されてのことでしょう（実際、彼は『孝義録』に掲載された人物の子孫を尋ね歩いている）。

また、一方の背景には、毛利正春が生きた幕末期の風俗・風紀の乱れがあったのかもしれない。幕府が『孝義録』によって庶民の模範を示そうとしたように、小倉藩内の善行者について調査し、まとめることで、何らかの形で庶民の徳育教化につなげたいと考えたのではないのでしょうか。

疎まれた調査
毛利正春が、小倉藩内で善行者調査をするにあたり、藩から便宜

長倉

百姓

町人地味

百姓

長倉

百姓

百姓

治承 明和四年

孝行者 享保十六年

孝行者 享保七年

孝行者 享保七年

孝行者 寛延二年

孝行者 寛延二年

孝行者 享保八年

▲『孝義録』第45巻「豊前国」(部分) 享和元年(1801)刊行



▲毛利正春の墓(田川市位登) 『孝義旌表録』完成から12年後、明治11年(1878)1月に75歳で没。

を受けることが出来たのは、河野四郎という当時の郡代（農村支配の最高責任者）の賛助があったからだと思いますが、その具体的な経緯は分かりません。ただ、藩の後援を受けた調査（ただし必要経費は「自腹」だった模様）だから、村々で親切な応対がなされたかという点、そんなこともなかったようです。

文久三年（一八六三）三月、仲津郡の筋奉行（仲津郡は現みやこ町・行橋市の一部。筋奉行は各郡農村支配の統括者）は、管内の大庄屋に対し次のような趣旨の指示を出しています。

「田川郡の神官・毛利丹波守（正春）が、去年から郡代の許しを得て孝子伝編集のための調査を行なっている。ところが、仲津郡で彼を誹謗し、邪魔者あつかいする者がいると聞く。このことは郡代の耳にも届いており、今後その

ようなことが無いよう注意すること」（国作手永大庄屋文久三年日記三月一日条）。

詳しい事情を聞かされていない村人たちにとってみれば、村に入り込んで、昔のことなどあれこれ尋ねてくる見知らぬ神官が疎ましく思えたのでしよう。

『孝義旌表録』完成

毛利正春の善行者調べは元治元年（一八六四）に終り、慶応二年（一八六六）にその成果が冊子にまとめられました。書名は「孝義旌表録」（旌表とは、善行をほめて世間に広く示すこと）。前編・後編各六巻のほか「略伝」（ダイジェスト版）など数種の附録本も作成されました。附録本の一つ「孝義旌表録目録」に書き上げられた人数（調査対象の善行者総数）は、九〇〇名を超えています。（川本英紀）